

鈴木直道
フォトグラフ

7/17 ウポポイが開業一周年
昨年7月の開業以来、徹底した感染症対策に加え、日々工夫を重ねながら運営されていることに感謝の思いで一杯です。一周年記念式典には加藤勝信官房長官(当時)も来道されました。

6/24 聖火セレモニーに出席
東京五輪の聖火リレーに代わる記念セレモニーを、白老と札幌で行いました。安心・安全な大会運営を組織委員会に要請し、競歩、マラソンについても観戦自粛を呼びかけました。

7/27 「縄文遺跡群」世界遺産に
道民にとって長年の悲願であった「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録が正式決定しました。これを北海道の観光振興や経済活性化につなげていきます。

9/25 戦没者追悼式に参列
先の大戦でお亡くなりになったすべての方々の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げ、平和への誓いを新たにしました。追悼式は、感染防止の観点から規模を縮小して実施しました。

**フォロワー数3万人突破！
知事インスタが人気急上昇！**

知事のインスタグラムでは、テレビや新聞などでは見られない鈴木知事の日常を写真付きで紹介しています。インスタは若者から年配の方まで多くの人が使っているアプリで、「知事の投稿内容について、子どもや孫と盛り上がるようになりました」といううれしい声も。

写真と知事のコメントが見られます。絵日記のような雰囲気、コメント欄にはたくさんの方からの書き込みがあります。鈴木知事の本音に共感したり、各地のおいしい食べ物について情報交換したり、皆さまが楽しくコミュニケーションする場にもなっています。

ワクチン接種についての話題では、これを見てワクチン接種について前向きに考えるようになった若い世代の声も多くありました。

石狩地区とオンライン後援会

6月下旬、石狩と札幌を結び、オンライン後援会を開催しました。この日は設立総会を兼ねており、鈴木知事は石狩地域選出の佐々木大介道議、後援会の皆さまと懇談し、コロナ禍での大変貴重な交流となりました。

出席した鈴木圭一さん(42)は、「メンバー1人ひとりが知事と言葉を交わし、道政や地域活動について意見交換しました。出席者は若手経営者が中心で、知事と同世代ということもあってとても盛り上がりました」とコメント。鈴木さんは石狩JCの仲間と開発したご当地カレー「イシカリー」を紹介し、地域おこし活動への積極的な支援を求めました。「コロナ禍で大変なことも多いと思いますが、今後も『決断力』に期待しています」

イシカン社長 鈴木圭一さん

皆さまには日頃から当会の活動にお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

鈴木知事は感染拡大の防止・社会経済の両立など、コロナ対策の先頭に立ち続けており、このことは心身ともに並大抵の努力ではできません。最前線で奮闘する鈴木知事を支えるため、皆さまのお力を結集してまいりたいと考えておりますので、今後ともお力添えを賜いますようお願い申し上げます。

活力あふれる北海道の未来を実現する会 似鳥 昭雄会長

毎日更新、140文字でいち早く情報をお届けします

鈴木知事の活動をじっくり読みたい方はこちらを！

北海道大好きな鈴木知事の日常を写真で掲載しています

鈴木直道レポート 4号

〒060-0032
札幌市中央区北2条東1丁目2-10
TEL.011-209-7070 FAX.011-209-7080
令和3年11月発行

鈴木直道

Report Vol.4

2021 AUTUMN

[活力あふれる北海道の未来を実現する会会報]
鈴木直道レポート 4号

新たな決意
安心社会の実現へ

ZERO CARBON HOKKAIDO

ごあいさつ

こんにちは、鈴木直道です。

知事の4年の任期も、残り1年半を切りました。就任1年目より新型コロナウイルスの感染拡大のため、地域に足を運ぶ機会が減ってしまったことは大変残念でした。感染症との闘いは長期化しておりますが、道民の皆さまの命と健康、暮らしを守ることを最優先に考え、全力で対策に取り組んでいます。

その上で、北海道が飛躍するための新しい取り組みも次々と具体化が進んでいます。ポストコロナを見据えた「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた省庁連携によるタスクフォースが設置され、「デジタル化」と共に大きく動き始めております。これからも国などと連携しながら北海道ならではの強みを生かした政策を加速していきます。

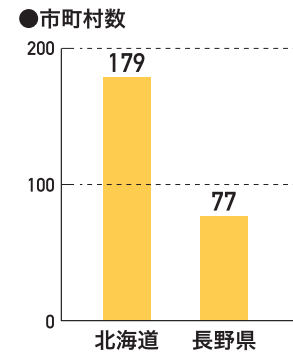
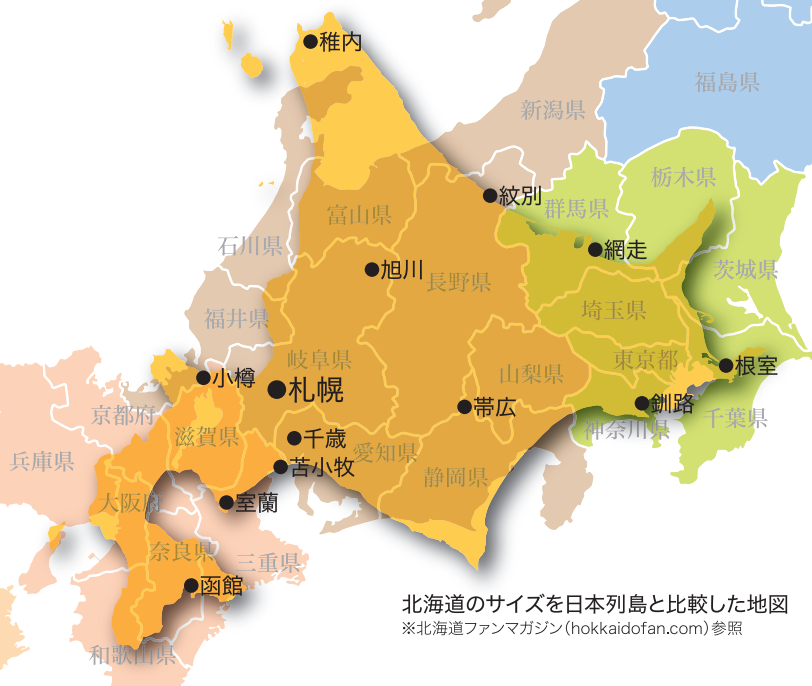
引き続き、活力あふれる北海道の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

プロフィール

1981年生まれ。埼玉県出身(本籍は夕張市)。東京都庁入庁後、働きながら法政大学法学部を卒業。2008年夕張市に職員派遣される。東京都庁を退職し、2011年夕張市長に当選。2期8年務める。2019年北海道知事に当選。

広さは22県分！ 北海道におけるコロナ対策の難しさ

北海道は179市町村という全国一の市町村数を有し、2位の長野県の2倍超と群を抜いています。東京都から大阪府までがすっぽり入ってしまうほどの大きさであることから、他地域にはない感染対策の難しさがあります。鈴木知事はこうした地域の実情に即した措置を国に求め、医療体制の強化などの体制づくりに注力しました。



道独自のワクチン接種 センター開設

コロナワクチン接種は予防接種法に基づき市町村が実施するものですが、札幌圏での感染拡大を受け、6月19日、道独自の「北海道ワクチン接種センター」を札幌市厚別区に開設しました。10月末現在で道内における接種率(医療従事者を含む)は1回目76.5%、2回目69.4%となり、今後も接種を希望する方が速やかにワクチンを打てるようしっかり後押ししてまいります。

東京、大阪に続き 北海道が全国3番目の 病床数を確保

北海道の最大確保病床数は東京、大阪の大都市圏に次ぐ全国3番目となる2000床(病床使用率2.8%)。さらに宿泊療養施設は2500室を確保(利用率0.7%)しています。

今後の感染拡大に備える重要な時期を迎えていることから、感染防止対策の徹底はもとより、ワクチン接種の促進と保健・医療提供体制の拡充・強化などとともに、地域の皆さまとも連携を図りながら、しっかりと感染症対策に取り組んでまいります。



第6波に備え、大規模臨時医療施設開設へ

現在「ホテルフォルツァ札幌駅前」の一部を臨時医療施設として活用していますが、新たに「アパホテル札幌すすきの駅西」を整備しました。130床あるベッドはすべて酸素投与ができ、入所者への治療が可能となります。感染者数を抑えていくとともに、必要な際にはこの臨時医療施設を活用し、軽症の方が重症化しないよう取り組んでまいります。



最近よく目にする全国知事会って何？

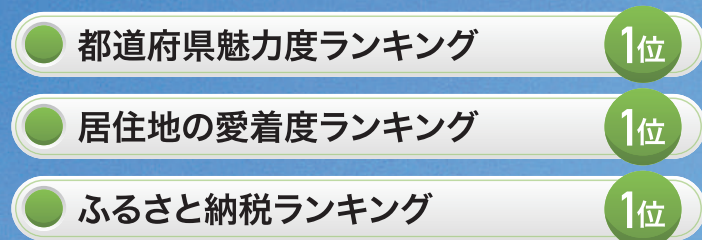
全国知事会とは地方行財政に関し、内閣または国会に意見を申し出ることができる団体です。コロナ禍においての地方自治体からの意見を国に伝えるなど、大きな役割を果たしています。知事会としての提言には鈴木知事からの発言が盛り込まれました。

まん延防止の要請から
適用までの日数を
短くしてほしい

危機意識を共有し、
地方からメッセージを
発信すべきだ

協力金の
支給対象外の施設にも
支援を

コロナ禍だからこそ北海道の魅力を発信！ 全国からも、道民からも、愛される北海道



ふるさと納税2年連続で全国1位に

愛着度ランキングでは道民の約9割が北海道にとっても愛着があると答え、魅力度ランキングで前年の60.8点から12.6点も上昇しコロナ禍で最も伸びが大きかった北海道。ふるさと納税では都道府県別納税額で北海道が鈴木知事就任後2年連続で1位を達成しました。令和元年度660億円から令和2年度は975億円へ大きくアップ。北海道応援団会議の参加企業と、地場産業を応援したいという皆さまとの連携も注目を集めています。

1位 北海道	975.1億円
2位 鹿児島県	398.2億円
3位 宮崎県	365.4億円

ピンチをチャンスに変えるセールス力

コロナ禍で百貨店での北海道物産展の中止が相次ぐ中、首都圏のスーパーで北海道フェアを開催。前年同期比約2倍の売り上げを計上し、道産品の知名度アップに貢献しました。

どさんこプラザ出店ラッシュ！

「どさんこプラザ有楽町」は年間売り上げ10億円以上と、全国のアンテナショップの中でもトップクラスの売上高を誇ります。日本の玄関口羽田空港店に続き、9月にはかねてから需要の大きかった関西圏初、大阪のランドマークである大阪あべのハルカス近鉄本店に出店。魅力ある道産品を全国に向けて次々と発信しています。



ポストコロナを見据えて グリーン社会とデジタル化の実現へ始動

「ゼロカーボン北海道」を推進

鈴木知事は2050年までに北海道の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする、「ゼロカーボン」の実現を目指しています。政府は脱炭素化の達成のためには、太陽光・バイオマス・水力発電など再生可能エネルギーの宝庫である北海道での取り組みが欠かせないとして、「骨太の方針2021」にも「ゼロカーボン北海道の実現」を盛り込みました。北海道は再生可能エネルギーをはじめとするポテンシャルが非常に高く、菅義偉内閣総理大臣(当時)からも、ゼロカーボンの実現に向けて、北海道での取り組みをしっかりと進めていきたいとお言葉をいただきました。



石狩データセンターを視察

国はデジタル化の推進に伴い、データセンターを地方へ分散させる計画を進めています。北海道は冷涼な気候を生かした効率的な冷却システムに加え、日本の中で一番アメリカ・ヨーロッパに近いという地の利があり、関連産業の誘致や振興に積極的に取り組んでいます。



“インターネットの父”を顧問に

本道のデジタル化を推進するため、「インターネットの父」と呼ばれる慶應義塾大学の村井純教授に北海道顧問への就任を依頼し、7月20日、オンラインにて任命式を行いました。今後、関連施策について幅広く助言・協力いただきます。

